

伊大の産業別コトボレンションの組織の如き、何れも各國其の性質と内容を異にすると雖ども、國家統制經濟の旗幟は今や漸く世界の舞臺に其の姿を顯はし來つたのである。

之を政治方面より観るに、昨年十月獨逸が國際聯盟並に國際労働機關より脱退し、歐洲の天地に一の爆彈を投じ、奧太利の内紛を繞つて歐洲列國の關係は次第に悪化し、東方に於ける、露滿國境の沃雲と共に一九三五・六年の軍縮會議を前にして今や漸く風雲急を告ぐるものあるを思はしむ。此の間にあつて露が米と結び、佛が露と結び、露の國際聯盟への加盟を見たるが如き、何れも複雑多難なる國際關係悪化の反映と見るべきである。

但し此の情勢の中にあつて、米の國際労働機關に加盟せると、ソビエト共和國が國際聯盟に加盟せると、亞細亞労働會議の結成を見たることは、國際協力の顯れとして最も注目し價するものなりと言はざるを得ない。

#### 國內情勢

世界資本主義の一環をなす我が國資本主義の現況を見る。世界各國が依然として産業不況の波にもまれ、ファツシヨ反動の嵐に苦悶しつゝあるの秋、日本の資本主義は跛行的・一時的インフレ景氣に多少の安定を示しつゝある。而して我が國の現今のインフレ景氣の中心をなすものは、軍需インフレと輸出インフレである。

即ち一九三五・六年の國際危機を目標とする軍需費は、昭和九年度陸海軍費九億三千七百萬圓に達し、歳出總額の四割四分を占め、之が官業並に民間軍需品工業をうるはして所謂軍需インフレを導き、一方金本位制停止後の爲替安の利用と低賃銀による生産費の低廉を基本とする輸出産業のインフレを招來しつゝある。

今生産指數、物價指數及び失業者數の統計を見れば次の如くである。

生産指數 (三養經濟研究所調) 主要二十六品目	物價指數 (日銀調)	失業者數 (社會局發表)
昭和五年 一〇〇	大正二年 一〇〇・〇	昭和七年十月 五〇三、九五八
昭和七年四月 一〇二・九	昭和七年四月 一二五・〇	同 八年十月 三九二、二九四
同 八年四月 一一九・一	昭和八年六月 一五八・八	同 九年三月 三八五、三四三
同 九年三月 一三二・二	昭和九年七月 一六四・一	

然しながら以上の統計を以て直ちに我が國資本主義の安定を指示するとは斷じ得られぬ。例へば今日の生産膨脹の主因をなす軍需工業の如き、借金及公債政策によるものであつて、永續的若しくは健全なる生産膨脹に非ず、又輸出インフレの如きも爲替安と劣悪なる労働條件の基礎の上に立てるものであつて、既に諸外國よりはソツナル・ダンピングなりとして、關稅高壁輸入制限等により、其の海外進出を阻止せられつゝあつて、前途必ずしも樂觀を許さざるものがある。

又物價の騰貴の如きも、労働階級の賃銀の増加による大衆購買力の増進に依るものに非ず、之れ全く今日の我が國のインフレ景氣は跛行的・一時的インフレなりと我等の斷つる所以である。

且つ我等労働階級の立場より之を見れば、軍需品工業の如き、資本家は徒らに利潤を私し、労働者の賃銀は多少上騰しつゝあるも、是れ一に殘業夜業等による増加であつて、其の健康と家庭生活の犠牲によるものと云はざるを得ない。又輸出産業の如き、ソツナル・ダンピングなりや否やは別として、資本家階級の主張するが如く、技術の改善、經營の合理化による生産費の節減に依存するに非ずして、主として最低賃銀制なく、八時間労働法すら實施を見ざる労働條件の低劣なる労働階級の犠牲によることは明白である。